

# 現代的感性光る300点まで

## 二科展黎明館で開幕

18日まで

第102回二科展

島市の黎明館で開幕し

(二科会、南日本新聞

た。本展巡回作に地元

社主催)が10日、鹿見

作家の作品を加えた絵



個性豊かな大作に見入る来場者

10日、鹿見島市の黎明館(木下瑛司撮影)

一画、彫刻、デザイン、写真の約300点を展示。具象から抽象まで現代的な感覚が光る作品が会場を彩る。18日まで(期間中無休)。

港の情景を細やかな筆遣いで表現した絵画、くもり抜けられる白い彫刻などが目を引く。松陽高校美術科1年 瓜生田大紀さんは「作者の考え方や何を思っ

る作品が印象に残った」と話した。

2月に84歳で死去した二科会評議員の有水基雄氏(鹿屋市)の作品も展示。剣道の試合を鮮やかな色と躍動感みなぎる筆致で表現している。作品解説した理事の西健吉さん(70)は「有水さんは絵と剣道」筋だった。影響や指導力が大きかっただけに残念」と話した。期間中の土日午後2時からギャラリートークがある。一般700円、大学・高校生400円、中学生以下無料。(福留梓)